

科目名	人間科学概論		科目コード	W22015	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-01H		30時間				
区分	社会科学系系列科目	必修	担当者名	藤岡 真之・西沢 勝則・斉藤 利男			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会学、心理学、歴史学という3つの分野の知見を学ぶことで、人間、社会、文明、およびそれらの結びつきについての理解を深めます。 1～5回は藤岡（社会学）、6～10回は西沢（心理学）、11～15回は斉藤（歴史学）が担当します。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-2、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人々のつながり・意識・行動・コミュニケーションが、大きな社会変化と結びついていることを理解する。（藤岡） ・人間行動に関する心理学の基本的な知見について、その概要を理解する。（西沢） ・自身の日常生活における経験等と関連付けて、心理学的知見の要点を説明できる。（西沢） ・戦争をめぐる人間の歴史を知り、戦争を空想でなく、身近な問題としてとらえることができるようになる。（斉藤） 									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	産業化と社会的つながり		デュルケームの議論を参照して、産業化の過程における社会的つながりの変化が人々にもたらしたものを考える。							
第2回	リスク社会化と社会的つながり		個人の自由度を高める一方で、不安を高めることにもなる、個人化という現象について考える。							
第3回	インターネット化とコミュニケーション		エコーチェンバー、フィルターバブルという現象を通して、インターネット上のコミュニケーションの特徴を考える。							
第4回	戦後社会における社会意識の変化		高度経済成長期、ポスト高度経済成長期における、人々の意識の変化を考える。							
第5回	消費社会化と社会意識		消費社会の発展に伴う、価値観やライフスタイルの変化を考える。							
第6回	感覚・知覚の世界		感じるしくみ、恒常性、錯視、色覚							
第7回	注意と記憶		選択的注意、注意の障害、記憶障害、記憶の変容							
第8回	思考のくせ		問題解決、ヒューリスティクス、認知的不協和							
第9回	言語とコミュニケーション		言語の習得、コミュニケーションの機能、ディスレクシア							
第10回	感情の理解と共感		感情の種類、推論する心の発達、共同注意、心の理論							
第11回	戦争と文明1、エレクトロニクスが戦を制す一命を大切にす国が勝利する		太平洋戦争最大の激戦だったマリアナ・サイパンの戦いを映像で学び、日本がなぜ惨敗したか、原因を探る。						ビデオを使用	
第12回	戦争と文明2、原始、人間社会は平和だった		古代文明社会における「戦争」の始まりを、人類の歴史から探る。							
第13回	戦争と文明3、戦争と軍隊はこうして生まれた		軍事国家としての古代国家の誕生と古代軍隊の特徴、そしてその崩壊過程を、日本や世界の古代の歴史から探る。						ビデオを使用	
第14回	戦争と文明4、近代国家と「国民軍」の誕生一庶民の苦難の時代の始まり		近代社会の到来は戦争と軍隊のあり方を根底から変えた。映像資料も使いつつ、「近代軍隊」と近代国家の実像に迫る。						ビデオを使用	
第15回	戦争と文明5、近代日本の戦争の歴史から何を学ぶか、映像資料から考える。		太平洋戦争に関する映像資料を見ながら、私たちの未来を考える。						ビデオを使用	
評価 方法 及び 評価 基準	(藤岡) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されているかどうかを評価基準とします。 (西沢) 毎回の講義で課す小レポートにより講義内容の理解度を評価します。 (斉藤) レポートを課し、出席とあわせて、評価を行います。レポートは課された課題について、主体的に考えているかどうかを評価の基準とします。									
課題等	課題については、授業内で指示する。									
事前事後 学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。 事後学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	(藤岡) 教科書は使用しません。参考書は、授業中に提示します。 (斉藤) 教科書・教材はこちらでプリントを用意し、授業の際に配付します。参考書は適宜提示します。									
留意点	(斉藤) 「歴史」は決して難しくありません。「面白そう」と思ったら、聞きに来て下さい。									

科目名	政治学（国際政治を含む）A		科目コード	W22001		単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期				
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	科目ナンバリング	W-TFSS1-02		時間	30時間			担当者名	西東 克介	授業形態	講義	単独	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 今日、社会全体がどちらかと言えば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこでこの講義のねらいは政治と私たちの社会とのような関係にあるのかを受講生に理解・意識してもらうことにあります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>														
到達目標	<p>・3点の理解を求めます。①なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのでしょうか。②なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのでしょうか。③江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのでしょうか。</p>														
授 業 計 画															
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修									備 考			
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について		さらに、出欠や感想文とレポートの違いについて説明を行います。												
第2回	政治とは何か		非常に広い意味の概念だが、できる限りわかりやすく説明し、理解していただきます。												
第3回	権力とは何か・権威とは何か		M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力について解説し、理解。												
第4回	弘前市議会議員を5名呼び、市政への関心を学生に高めてもらう。		次回第5回の初めの30分でワークショップを開催し、記録を取る。												
第5回	マスメディアと政治		民主主義体制における政治家とマスメディアには基本的に価値観のタイルがあることを理解。												
第6回	民主主義		民主主義体制の長所と短所、民主主義体制以外の独裁体制についての理解。												
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化		集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校では、制度に集団主義文化が採用されています。日米の文化が政治に影響を与えていることを理解。												
第8回	18歳選挙権と参政権		日本国憲法第16条には請願権が上げられているが、これは議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わりなく、意見を述べるができることへの理解。												
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）		国際政治における兼六・条約・国際連合の関係を理解。												
第10回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（1）		現在も武力衝突が続いている2勢力の歴史についての理解。												
第11回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（2）		2勢力の歴史的背景の理解。												
第12回	官僚制理論（1）		官僚制理論の基礎的理解。M. ウェーバーの推定した組織化された社会の進行は今も続きます。その長所と短所について考察。												
第13回	官僚制理論（2）		同上。												
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化		戦後我が国は、垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化にかわりつつあるといます。双方の長所と短所について考察。												
第15回	制度と慣習		M. ウェーバーの制度と文化の絡みの分析の理解。												
評価方法及び評価基準	グループワーク（30%）と試験（70%）。														
課題等	できれば、新聞で、そうでなければ、テレビ・パソコン・スマホで政治に関する気になる記事を見たり、読んだりして下さい。														
事前事後学修	講義の前日は前述したことを必ず行って下さい。														
教材教科書参考書	・教科書；橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705														
留意点															

科目名	政治学（国際政治を含む）B		科目コード	W22002 W-TFSS1-03		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば、応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には、長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されているのである。私たちが努力する方向性をさぐるために、さらに学んでいきたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>										
到達 目標	政治には、未知な部分が多い。それゆえ、未来を切り開く自分自身にああでもないこうでもないと常に問いかける自分自身を形成して行って欲しい。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	本講義・展開方法・試験等について		出欠の取り方や感想文とレポートの違いについて理解。								
第2回	黒人差別の歴史的経過		米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの経過を概説し、理解。								
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）		1950年代から1960年代までの公民権運動の動画の鑑賞。								
第4回	公民権運動の動画鑑賞（2）		同上の鑑賞と残りの45分でワークショップ。								
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質		リーダーは、リーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長する。良き方向か、悪しき方向か、このことをリーダーと周囲の人間は常に配慮する必要があることを理解。								
第6回	銀内閣制・大統領制とリーダーシップ		議院内閣制と大統領制のリーダーシップの関係の理解。								
第7回	圧力団体・公益法人・NPO		圧力団体・公益法人・NPOを学び、調書・短所を理解。								
第8回	文民統制・自衛隊・集団安全保障		民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念の理解。								
第9回	日本の政策過程		日本の政策過程について、1955年以来形成されてきたパターンの理解。								
第10回	NGOとNPOのミッション		(NGOを含む) NPOの企業や行政と異なる点は何か。また、そのミッションとは何か。								
第11回	NPOの機能と構造のパターン		NPOの機能と構造のパターンからその長所と短所を理解。								
第12回	ドイツの元首相メルケル		ドイツの元首相メルケルについて、その生い立ちから首相における業績の理解。								
第13回	ウクライナへのロシアの武力攻撃		2022年2月24日ロシアはウクライナに侵攻し、戦争を始めた。これまでの状況の理解。								
第14回	欧州における性労働者の権利		欧州における性労働者の主張を紹介し、理解。								
第15回	前回のテーマでワークショップとまとめ		ワークショップをメモして残す。まとめ。								
評価 方法 及び 評価 基準	2度のワークショップの記録（50%）と試験（50%）。										
課題等	差別のニュース・記事にテレビのニュース・パソコン・スマホなどで日常的に関心を持つ。										
事前事後 学修	前回学んだテーマについて、パソコン・スマホなどで関連する情報を読んでみよう。										
教材 教科書 参考書	・教科書；橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705										
留意点											

科目名	行政学		科目コード	W22020	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-04						
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 行政を組織という視点から学んでいきます。官僚制・行政国家化（組織化）・機能と構造・目的/手段のヒエラルキーなどの視点から学んでいきます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	私たちの社会（政治と経済）は、進歩しようとするほど、組織化は進んでいきます。このことの長所と短所について考える習慣を身につけていきます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	本講義の概要・展開方法・試験など			学生同士の議論について説明。					仮のテーマで議論を行う。	
第2回	行政とは何か			三権分立・行政法学・PDCAサイクル等から説明。						
第3回	行政国家とは何か			行政国家を大きな政府・福祉国家・情報社会等から説明。					学生に行政国家の理解ができたか確認する。	
第4回	官僚制とは何か			近代官僚制を近代以前の官僚制・企業官僚制・その他の官僚制から分析。						
第5回	M. ウェーバーの官僚制			M. ウェーバーの支配の正当性と官僚制理論の説明。						
第6回	小さな政府と大きな政府			19・20世紀の酷寒論と冷戦構造化の制討論の説明。					行政国家論との関係の確認。	
第7回	我が国の行政組織（1）			内閣（政治組織）と行政各省庁（公務員組織）の原理の理解。						
第8回	我が国の行政組織（2）			行政各省庁の内部組織の原理とセクショナリズムの理解。					我が国行政組織の理解の確認。	
第9回	我が国の地方行政組織（1）			1945—1955年と1995—2000年までの地方行政組織の比較の理解。						
第10回	我が国の地方行政組織（2）			2000年以降の地方行政組織の理解。					我が国地方行政組織の理解の確認。	
第11回	ジェネラリストとスペシャリスト			日米の行政組織の違いの理解と英国の専門職としてのジェネラリストの理解。						
第12回	第一線職員のジレンマと行政文化			第一線職員のジレンマを我が国の行政文化（集団主義文化）により理解。						
第13回	行政統制と行政責任			行政国家的な現象の中で、ますます行政統制と行政責任の形式化が進んでいる。この原因は何かを理解。					政治の腐敗「も」その大きな原因となっている。	
第14回	アカウントビリティと評価			行政統制と行政責任を実質的なものにするために、この20年ほどで徐々に行政現場にアカウントビリティと評価の制度が採用されている。その長所と短所について理解。						
第15回	まとめ・行政国家とは何か			行政国家が理解できているかを確認。					行政国家化の理解。	
評価 方法 及び 評価 基準	試験90%と3回に1回の学生同士への取り組み10%で評価。									
課題等	授業に関連するニュースをできる限り、テレビかスマホかパソコンで見て下さい。									
事前事後 学修	組織と個人の関係について、日頃から考える習慣を身につけてほしい。									
教材 教科書 参考書	教科書土岐寛著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2015年。ISBN：978—477304521									
留意点										

科目名	ローカル・ガバナンス		科目コード 科目ナンバリング	W33028 W-TFSS2-05	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 本講義は、ガバナンスという比較的新しい概念を重視する講義です。簡単に言うと、政治や行政の政策・施策は他人事ではないということを学ぶことが中心になります。それゆえ、私の講義を聴いたり、新聞記事を読んだ後、学生同士で話し合ったりすることもしばしばあります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達 目標	基本的な講義内容は毎回説明しますが、個々の事柄については、自分自身で考えたり、周囲の学生の意見を聞きながら、自分自身の考え方を形成していくことを学んでいきます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	自律を個人・集団・組織から考える			自律について、個人・集団・組織から考えます。					終了20分前からグループで話し合います。	
第2回	自立を個人・集団・組織から考える			自立について、個人・集団・組織から考えます。					終了20分前からグループで話し合います。	
第3回	我が国集団主義文化の長所と短所を考える			我が国集団主義文化の長所と短所を小・中・高の経験から考えます。					終了20分前からグループで話し合います。	
第4回	地方政府の自立を考える			我が国の場合、歴史的事情と連邦制でないことから、地方政府の自立に困難な面があります。					終了20分前からグループで話し合います。	
第5回	governmentとgovernanceの違いの理解			組織を静態（形式）的ではなく、胴体（実質）的な視点から、2000年以降の我が国地方自治体を考察。新聞記事を読みます。						
第6回	governanceとしての米国地方政府の理解			歴史的な視点と動的な視点から米国地方政府を分析し、将来の我が国地方政府について考えます。						
第7回	A, トクヴィルの自治の精神を理解			およそ180年前、仏人A, トクヴィルは米国に渡り、米国を分析した。その基本的理解に努めて下さい。						
第8回	米国の個人主義文化の理解			米国の連邦制と教育と宗教（キリスト教）による個人主義文化の理解に努めて下さい。						
第9回	合理化とグローバルリズム・ローカリズム			これらが世界と我が国にどのような影響を与えてきたのかの理解に努めて下さい。						
第10回	専門職と能力についての基礎的理解			我が国と米国の専門職について考えます。						
第11回	専門職と専+17:24門職団体について考える			専門職と団体の関係について、その長所と短所について考えます。						
第12回	専門職・専門職団体・一般的組織について考える			専門職は、社会（一般的組織）を改善していくことが可能か。						
第13回	ジェネラリストとスペシャリストと行政組織・企業組織の関係を考える			英国は国家レベルの行政でジェネラリストを専門職として数年前から採用。なぜか。我が国への影響はないのでしょうか。						
第14回	ローカルガバナンスの未来Ⅰ			以上の議論から、ローカルガバナンスの未来を考えます。						
第15回	ローカルガバナンスの未来Ⅱ			以上の議論から、ローカルガバナンスの将来を考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	講義の半ばほどで、1度レポートを書いてもらいます（30点）。試験が70点。									
課題等	教科書：藤井浩司・中村祐司（編著）『地方自治の基礎』一藝者（2017）、2400円。ISBN：978-4863591264									
事前事後 学修	特に指定しない。									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。									
留意点										

科目名	経済学（国際経済を含む）A		科目コード	W22005	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-06	時間	30時間	学年			
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達 目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	重商主義の時代			アダム・スミスの時代と生涯について学びます。						
第3回	市場メカニズム			アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。						
第4回	小さな政府			アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。						
第5回	産業革命の時代			リカードの時代と生涯について学びます。						
第6回	国際貿易の原理			リカードの比較生産費説について学びます。						
第7回	階級闘争の時代			マルクスの時代と生涯について学びます。						
第8回	資本主義の構造			マルクスの資本主義の構造的分析について学びます。						
第9回	資本主義の歴史			マルクスの資本主義の歴史的分析について学びます。						
第10回	ヴィクトリア時代			マーシャルの時代と生涯について学びます。						
第11回	市場経済の理論			マーシャルの需給均衡理論について学びます。						
第12回	大恐慌の時代			ケインズの時代と生涯について学びます。						
第13回	失業の原因			ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。						
第14回	福祉国家の形成			ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。</p> <p>2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	<p>（参考書）八木紀一郎『経済思想』（第2版）日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431</p> <p>※品切中のため新品を入手することはできません。</p>									
留意点										

科目名	経済学（国際経済を含む）B		科目コード	W22006	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-07	時間	30時間	学年			
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	福田 進治				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達 目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	日本経済の動き			戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。						
第3回	マクロ経済分析			現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。						
第4回	失業の原因			失業の定義、概念、原因について学びます。						
第5回	総生産の決定			総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。						
第6回	財政政策の効果			政府の役割と財政政策の効果について学びます。						
第7回	財政赤字と失業			財政政策の運用と限界について学びます。						
第8回	貿易の効果			貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。						
第9回	為替レート			為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。						
第10回	金融市場の役割			金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。						
第11回	利子率の決定			利子率の決定と資産選択の原理について学びます。						
第12回	金融政策の効果			中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。						
第13回	物価の変動			物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。						
第14回	経済成長の戦略			経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。</p> <p>2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	（参考書）塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN：9784309248417									
留意点										

科目名	法学（国際法を含む） A		科目コード	W22007	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-08		30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 本講では、「法」という社会のルール（社会規範）について、他の社会規範とも比較しつつ、その特色や存在形態などに関する概括的な理解の形成をはかる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	自立した一個人として「法」と向き合い、「法」を用いていける基礎を築くことはもとより、将来、援助者として不利な立場の人々と関わる際に、それらの人々の権利や利益を適切に擁護し得る基礎としての知識や理解の形成を目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	「法」とは何か①			社会生活における「法」						
第2回	「法」とは何か②			「法」の存在形態						
第3回	「法」とは何か③			「法」は誰がつくるのか				ディスカッション		
第4回	「法」の種類①			民事砲と刑事法						
第5回	「法」の種類②			公法と私法						
第6回	「法」の種類③			実体法と手続法						
第7回	「法」の種類④			国家法と自治法						
第8回	「法」の種類⑤			市民法と社会法				ディスカッション		
第9回	「法」の実現①			「法」の遵守						
第10回	「法」の実現③			「法」と裁判						
第11回	「法」の実現③			「法」と法律家						
第12回	「法」の実現④			「法」の適用						
第13回	「法」の実現⑤			「法」の解釈						
第14回	「法」の実現⑥			「法」解釈の科学性				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
評価 方法 及び 評価 基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと 目安：毎週3時間									
教材 教科書 参考書	五十嵐清『法学入門[第4版 新装版]』日本評論社 ISBN:978-4-535-52318-0									
留意点	法律の条文等をその場で参考出来るよう、六法類などを常に持参すること。									

科目名	法学（国際法を含む）B		科目コード	W22008	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-TFSS1-09	時間	30時間					
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「法学A」で学んだことを踏まえて、「法」による社会紛争の解決はどのようなメカニズムによるのか、「法」はどのように適用されているのか、「法」の解釈とはどのような行為であるのか等の理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達 目標	「法学A」同様に、将来、援助者として「権利擁護」を行う為の基礎的な力を養成することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	「法」と社会規範①			「法」と道徳						
第2回	「法」と社会規範②			「法」と習俗				ディスカッション		
第3回	生活局面と「法」①			財産関係と「法」①～契約～						
第4回	生活局面と「法」②			財産関係と「法」②～不法行為～				ディスカッション		
第5回	生活局面と「法」③			家庭生活と「法」①～婚姻～						
第6回	生活局面と「法」④			家庭生活と「法」②～親子～						
第7回	生活局面と「法」⑤			家庭生活と「法」③～相続～				ディスカッション		
第8回	生活局面と「法」⑥			犯罪と「法」①～犯罪とは？～						
第9回	生活局面と「法」⑦			犯罪と「法」②～刑罰とは？～				ディスカッション		
第10回	生活局面と「法」⑧			基本的人権				ディスカッション		
第11回	生活局面と「法」⑨			立法権				ディスカッション		
第12回	生活局面と「法」⑩			行政権				ディスカッション		
第13回	生活局面と「法」⑪			司法権				ディスカッション		
第14回	生活局面と「法」⑫			地方自治				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
評価 方法 及び 評価 基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと 目安：毎週3時間									
教材 教科書 参考書	五十嵐清『法学入門[第4版 新装版]』日本評論社 ISBN:978-4-535-52318-0									
留意点	法律の条文等をその場で参照できるように六法類などを常に持参すること。									

科目名	社会学 A		科目コード	W22009	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-10		30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 選択必修 必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対する幅広い見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、家族、ジェンダー、社会システム等。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-1、4-2に関連している</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実起こっている社会現象を、社会学の概念を用いて理解できるようになる。 									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	社会学とは何か		人文社会科学と社会学							
第2回	自己と他者(1)		自己と他者の関係							
第3回	自己と他者(2)		社会化							
第4回	自己と他者(3)		相互行為							
第5回	家族とジェンダー(1)		家族に関する基本的な概念							
第6回	家族とジェンダー(2)		ジェンダーと近代家族							
第7回	家族とジェンダー(3)		家族の変動							
第8回	健康(1)		自殺、依存症						小テスト	
第9回	健康(2)		慢性疾患、スティグマ							
第10回	労働(1)		労働市場の性質とルール							
第11回	労働(2)		戦後日本における労働をめぐる取り組み							
第12回	世代(1)		ライフサイクル、ライフコース						小テスト	
第13回	世代(2)		個人化と社会問題							
第14回	社会システム(1)		社会システムとは何か							
第15回	社会システム(2)		社会階層システム							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学期末に行う試験、小テスト、課題によって評価を行います(期末試験:60%、小テスト:20%、課題:20%)。期末試験では、基本的な概念の理解、およびそれらの概念を使用して社会現象を応用的に捉えることに関する問題を出します。論述問題では、論理性および着眼点の独自性を評価します。</p>									
課題等	課題の提出、フィードバックは、Teamsを使用して行います									
事前事後 学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安:週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 15回の授業のうちの1回はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、Teamsにアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。 Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます 									

科目名	社会学B		科目コード	W22010	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	W-TFSS1-11	30時間							
区分	社会科学系科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 選択必修 必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対する幅広い見方を学ぶ。扱うテーマは、組織・集団、人口、グローバリゼーション、社会変動、地域、社会的格差等。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-1、4-2に関連している									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実起こっている社会現象を、社会学の概念を用いて理解できるようになる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	組織と集団（1）		集団・組織の概念と分類							
第2回	組織と集団（2）		非営利組織							
第3回	人口（1）		高齢化、少子化							
第4回	人口（2）		人口移動							
第5回	グローバリゼーション		グローバリゼーションと社会							
第6回	社会変動（1）		前近代社会から近代社会へ						小テスト	
第7回	社会変動（2）		産業化、情報社会化、消費社会化							
第8回	地域（1）		コミュニティとアソシエーション							
第9回	地域（2）		限界集落、ソーシャルキャピタル							
第10回	環境		環境問題と持続可能性							
第11回	社会的格差（1）		格差と貧困						小テスト	
第12回	社会的格差（2）		雇用格差、教育格差、健康格差							
第13回	社会政策と社会問題		産業社会と社会政策							
第14回	差別と偏見		社会的排除、偏見、差別							
第15回	災害と復興		災害と社会							
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う試験、小テスト、課題によって評価を行います（期末試験：60%、小テスト：20%、課題：20%）。期末試験では、基本的な概念の理解、およびそれらの概念を使用して社会現象を応用的に捉えることに関する問題を出します。論述問題では、論理性および着眼点の独自性を評価します。									
課題等	課題の提出、フィードバックは、Teamsを使用して行います									
事前事後 学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 15回の授業のうちの1回はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、Teamsにアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。 Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます 									

科目名	政治思想史A		科目コード	W22011	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-12		30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	村松 恵二			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[キーワード：自由主義 民主主義 保守主義] 政治思想史の講義では、政治思想の歴史をたどりながら、政治理念・政治思想(〇〇主義)に関して、基礎的知識を身につけ、政治的なものの考え方の特徴について学びます。A・Bあわせて、福祉国家を支える政治思想の形成過程が理解できるように学びます。</p> <p>政治思想史Aでは、マキアヴェリやバークなどから、政治というもののもつ独特の論理について学びます。また、ホッブズ、ロック、ルソーなどから、現在の先進諸国の政治原理である自由民主主義を構成する要素(個人主義と自由主義、民主主義と平等)について学びます。</p>									
	<p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4および、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>「規制緩和」と「小さい政府」が要求されている現在でも、国民生活のすべてにわたり、政治が影響を及ぼしているという点では、基本的な変化はありません。この講義では、福祉を考える上で、ますます重要になっている政治について、とりわけ政治理念、政治思想という観点から、学ぶことが目標です。</p> <p>政治思想史Aでは、講義全体を通じて、自由民主主義を構成する二つの要素(自由主義と民主主義)の区別と関連を理解することが到達目標です。個人主義、自由主義、民主主義、平等などの概念を正確に把握し、使いこなせるようになることです。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	ガイダンス		講義の目標や他の授業科目との関係、聴講の際の注意事項など							
第2回	マキアヴェリの政治思想		マキアヴェリの政治思想、とくに政治と道徳の関係について							
第3回	ホッブズの政治思想(1)		ホッブズの社会契約論の特徴、生存権の重要性について							
第4回	ホッブズの政治思想(2)		主権の絶対性をめぐる理論について							
第5回	ロックの政治思想(1)		ロックの略歴、彼の政治思想と名誉革命との関係について							
第6回	ロックの政治思想(2)		所有権を正当化する理論を中心に							
第7回	ロックの政治思想(3)		信教の自由をめぐる理論について、レポート課題について説明							
第8回	ルソーの政治思想(1)		ルソーの略歴、18世紀の特徴などについて							
第9回	ルソーの政治思想(2)		ルソーの現状批判の諸理論について							
第10回	ルソーの政治思想(3)		ルソー社会契約論の特徴、自治の理論について							
第11回	ヒュームの政治思想		社会契約論批判について、功利主義的説明の方法について							
第12回	バークの政治思想(1)		バークの略歴、フランス革命の与えた衝撃について							
第13回	バークの政治思想(2)		「フランス革命についての考察」を中心に保守主義原理について							
第14回	バークの政治思想(3)		保守主義原理の展開について							
第15回	まとめ		講義全体を振り返りつつ重要な点を再確認する、期末テスト実施							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験、レポート、学習状況を総合的に評価します。政治思想の基本的知識を問う問題を出します。達意の日本語になっているかどうか重要な評価要素です。レポート提出等も含め、しっかり勉強してもらい、確実に単位を確保できる方法を考えます。試験40点、レポート評価点30点、平常点評価30点。</p>									
課題等	<p>レポートは添削して返却します。とにかく、達意の日本語が書けるように普段から努力してください。</p>									
事前事後 学修	<p>講義後にレジュメをしっかり復讐すること。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>テキストは使用しません。講義の際に、レジュメを配付します。</p>									
留意点	<p>社会や政治のあり方に問題意識をもって(新聞やテレビニュースを見ながら)聴講してください。</p>									

科目名	政治思想史B		科目コード	W22012	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-13		30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	村松 恵二			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔キーワード：自由民主主義 社会主義 福祉国家〕 政治思想史の講義では、政治思想の歴史をたどりながら、政治理念・政治思想（〇〇主義）に関して、基礎的知識を身につけ、政治的なものの考え方の特徴について学びます。A・Bあわせて、福祉国家を支える政治思想の形成過程が理解できるように学びます。</p> <p>政治思想史Bでは、J・S・ミルやマルクス、スペンサー、グリーンなどの思想家を取りあげて、19世紀以降に展開される、自由民主主義、社会主義、さらに福祉国家を支える政治思想について学びながら、自由民主主義と福祉国家の将来を考えます。</p>									
	<p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4および、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>「規制緩和」と「小さい政府」が要求されている現在でも、国民生活のすべてにわたり、政治が影響を及ぼしているという点では、基本的な変化はありません。この講義では、福祉を考える上でますます重要になっている政治について、とりわけ政治理念、政治思想という観点から、学ぶことが目標です。</p> <p>政治思想史Bでは、講義を通じて、自由主義と社会主義の対抗関係のなかで福祉国家が形成されてくる過程を理解してもらいます。福祉政策をめぐる現在の政策的対立である、新自由主義と社会民主主義の政策体系について、理解することが到達目標です。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）							備 考	
第1回	ベンサム——自由主義の民主主義化	ガイダンスの後、功利主義の理論と参政権の拡大の理論について								
第2回	J・S・ミルの自由論（1）	ベンサム主義の修正について								
第3回	J・S・ミルの自由論（2）	消極的自由と積極的自由（道徳的自由）について								
第4回	J・S・ミルの自由論（3）	大衆民主政と多数派の専制について								
第5回	社会主義の政治思想（1）	初期マルクスの政治思想								
第6回	社会主義の政治思想（2）	エンゲルスの政治思想について								
第7回	社会主義の政治思想（3）	マルクスの資本主義経済分析、「脱成長コミュニズム」論について								
第8回	スペンサーの社会進化論	資本主義経済への信頼と自由放任論								
第9回	社会ダーウィニズムの思想（1）	帝国主義政策と人種論を正当化した理論について								
第10回	社会ダーウィニズムの思想（2）	帝国主義批判の理論								
第11回	グリーン理想主義政治思想（1）	19世紀後半のイギリスと自由主義の修正について								
第12回	グリーン理想主義政治思想（2）	契約の自由の修正および国家の役割の変化と社会政策について								
第13回	ホブハウスの福祉国家思想	現代福祉国家を準備したホブハウスの政治思想について								
第14回	新自由主義と社会民主主義	福祉政策をめぐる二つの潮流の対立について								
第15回	まとめ	講義を振り返りつつ重要な点を再確認する、期末テスト実施								
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験、レポート、学習状況を総合的に評価します。政治思想の基本的知識を問う問題を出します。達意の日本語になっているかどうか重要な評価要素です。レポート提出等も含め、しっかり勉強してもらい、確実に単位を確保できる方法を考えます。試験40点、レポート評価点30点、平常点評価30点</p>									
課題等	<p>レポートは添削して返却します。とにかく、達意の日本語が書けるように普段から努力してください。</p>									
事前 事後 学修	<p>講義後にレジメをしっかり復讐すること</p>									
教材 教科書 参考書	<p>テキストは使用しません。講義の際にレジメを配付します。</p>									
留意点	<p>社会や政治のあり方に問題意識をもって（新聞やテレビニュースを見ながら）聴講してください。</p>									

科目名	社会科学特講A		科目コード	W22013	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-14		30時間				
区分	社会科学系列科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	社会福祉と法(1) ～社会福祉法を学ぶ 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシー1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	将来、社会福祉従事者になった際に、消極的・受動的に法や制度に振り回されないように、あるいは、反対に、利用者の利益のために法や制度を積極的・能動的に用いることが出来るように、確かな知識を身につけることを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	社会福祉の憲法上の根拠と関連諸法律		日本国憲法25条をはじめ、憲法上の根拠を学ぶほか、福祉三法、福祉六法など福祉関係諸法律を概観する							
第2回	法令解釈の基礎		法令の読み方に資するべく、目的規定など規定の種類や法文特有の言葉遣い等を修得する						ディスカッション	
第3回	「社会福祉法」前史		戦前・戦後の立法動向						ディスカッション	
第4回	社会福祉法(1)		総則							
第5回	社会福祉法(2)		福祉に関する事務所							
第6回	社会福祉法(3)		社会福祉法人(1) 社会福祉法人の誕生							
第7回	社会福祉法(4)		社会福祉法人(2) 通則(経営の原則、公益事業と収益事業、所轄庁)							
第8回	社会福祉法(5)		社会福祉法人(3) 組織および機関							
第9回	社会福祉法(6)		社会福祉法人(4) 解散、合併						ディスカッション	
第10回	社会福祉法(7)		社会福祉事業 経営の準則と監督							
第11回	社会福祉法(8)		福祉サービスの適切な利用 日常生活自立支援事業と成年後見制度						ディスカッション	
第12回	社会福祉法(9)		地域福祉の推進(1) 包括的支援体制および重層的支援体制の整備							
第13回	社会福祉法(10)		地域福祉の推進(2) 地域福祉計画および社会福祉・医療等に関する諸計画							
第14回	社会福祉法(11)		地域福祉の推進(3) 社会福祉協議会および共同募金						ディスカッション	
第15回	社会福祉法(12)		社会福祉連携推進法人						ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	短答式の客観試験のみ									
課題等	随時伝える									
事前事後 学修	事前よりも事後学習により多く取り組むこと(分からないこと、不明なことは早めに質問等を行い、解消すること)									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意点	福祉関係の六法を持参し、常に条文等を参照できるように備えること									

科目名	社会科学特講B		科目コード	W22014	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-15		30時間				
区分	社会科学系列科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉と法(2)～社会福祉関係諸法律を学ぶ									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシー1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	将来、社会福祉従事者になった際に、消極的・受動的に法や制度に振り回されることがないように、あるいは、反対に、利用者の利益のために法や制度を積極的・能動的に用いることが出来るように、確かな知識を身につけることを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	高齢者福祉の法(1)		高齢者概念 高齢者福祉法の概観							
第2回	高齢者福祉の法(2)		老人福祉法							
第3回	高齢者福祉の法(3)		介護保険法						ディスカッション	
第4回	障害者福祉の法(1)		障害者福祉法の概観 障害の概念 障害者基本法の意義							
第5回	障害者福祉の法(2)		身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法							
第6回	障害者福祉の法(3)		障害者総合支援法						ディスカッション	
第7回	児童福祉の法(1)		児童福祉の法の概観							
第8回	児童福祉の法(2)		児童福祉法							
第9回	児童福祉の法(3)		子ども・子育て支援法						ディスカッション	
第10回	公的扶助の法(1)		公的扶助の体系							
第11回	公的扶助の法(2)		生活保護法の理念と原則							
第12回	公的扶助の法(3)		生活保護の実施過程						ディスカッション	
第13回	社会福祉士及び介護福祉士法		社会福祉士及び介護福祉士法の概要							
第14回	民生委員法		民生委員制度の歩みと職務							
第15回	総括～社会福祉と法		まとめと振り返り						ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	短答式の客観試験のみ									
課題等	随時伝える									
事前事後 学修	事前よりも事後学習により多く取り組むこと(分からないこと、不明なことは早めに質問等を行い、解消すること)									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意点	福祉関係の六法を持参し、常に条文等を参照できるように備えること									

科目名	宗教学（キリスト教）A		科目コード	W23001	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-01H		30時間				
区分	総合科学系系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	必修 必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教の基礎知識及び宗教全般に対する必要な知識を得ることを第一の目的とする。聖書を学ぶことで、自分自身や社会について考察し社会福祉を学ぶための一助としたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-2, 2-2, 3-1, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. キリスト教や宗教についての基本的知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的アプローチという観点を得る。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージから自己や社会について考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	基礎的知識		キリスト教や聖書の基礎知識、宗教とは何か(カルト含む)							
第2回	弘前学院の歴史		弘前学院の成立とその歩み、キリスト教と弘前							
第3回	キャンパスウオーク		弘前学院宣教師館や礼拝堂、図書館などを実際に訪れての説明							
第4回	キリスト教史		キリスト教の歴史、ユダヤ教とイスラームとの関係性							
第5回	旧約聖書概説		旧約聖書の成立、39巻のダイジェスト説明							
第6回	旧約聖書を読む（1）		創世記の伝えようとしているもの						ディスカッション	
第7回	旧約聖書を読む（2）		モーセと出エジプト記						ディスカッション	
第8回	旧約聖書を読む（3）		イスラエルの苦難の歴史、サムエル記と列王記							
第9回	旧約聖書を読む（4）		預言書、知恵文学、諸書							
第10回	新約聖書概説		新約聖書の成立、27巻のダイジェスト解説							
第11回	新約聖書を読む（1）		イエス誕生物語を読む						ディスカッション	
第12回	新約聖書を読む（2）		イエスの言葉と行動						ディスカッション	
第13回	新約聖書を読む（3）		イエスの死と復活の意味						ディスカッション	
第14回	新約聖書を読む（4）		パウロ書簡とパウロの働き、初代教会の成立、ローマ帝国との関係							
第15回	まとめとふりかえり		講義のふりかえり、後期の宗教学Bに向けて							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験50%、講義への参加と出席30%、木曜日の礼拝出席とその感想文20%で評価する。</p> <p>期末試験は講義中のポイントが理解できているかどうかを問う問題を出題。</p>									
課題等	講義時に指示。特別礼拝の感想文を書いてもらう予定。									
事前事後 学修	指示した聖書テキストを事前学習として丁寧に読んでくること。事後学習は参考としてあげた資料を各自確認すること。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』。新共同訳の旧約聖書・新約聖書が両方入っていればどのサイズでも良い（入学時購入者は新共同訳である）。 ノートとプリント保管用ファイルを各自で準備。毎回プリントを配布する予定。									
留意点	場合によっては一回程度オンデマンドで講義することもある。 木曜日10：20からの礼拝に参加すること。本講義及び礼拝、また本学のキリスト教教育は信仰を強制するものではない。									

科目名	宗教学（キリスト教）B		科目コード	W23002	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-02H		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	必修 必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 キリスト教は他者を尊重し、愛し、お互いに支え合って生きることを大切に考える。このことは社会福祉の精神とも重なるものである。聖書のテキストを読み考えることによって、様々な人間関係のあり方を考察したい。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-2, 2-2, 3-1, 4-2に関連している。									
到達 目標	1. キリスト教という視点、価値観から自己と他者のあり方を考える。 2. 聖書の中の物語を読み考えることを通し、それにこめられたメッセージを学ぶ。 3. キリスト教的倫理観という観点を得る。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	方法論		基礎知識の確認、前期の復習、講義の指針の説明							
第2回	創世記を読む（1）		天地創造物語とその背景（創世記1:1～2:4）							
第3回	創世記を読む（2）		楽園喪失と自立（創世記2:4～3:24）						ディスカッション	
第4回	創世記を読む（3）		神のえこひいき（創世記4:1～26）						ディスカッション	
第5回	創世記を読む（4）		言葉の必要性（創世記11:1～9）						ディスカッション	
第6回	創世記を読む（5）		アブラハム物語（創世記12:1～25:26の中から）							
第7回	福音書を読む（1）		イエス誕生物語（マタイ1:18～2:23 ルカ2:1～20）						ディスカッション	
第8回	福音書を読む（2）		放蕩息子のたとえ（ルカ15:11～32）						ディスカッション	
第9回	福音書を読む（3）		ぶどう園の労働者と不公平の謎（マタイ20:1～16）						ディスカッション	
第10回	福音書を読む（4）		タラントンのたとえ（マタイ25:14～30）						ディスカッション	
第11回	福音書を読む（5）		徴税人ザアカイ（ルカ19:1～10）						ディスカッション	
第12回	福音書を読む（6）		イエスの教える愛の姿（ルカ6:27～36 ルカ10:25～37）						ディスカッション	
第13回	福音書を読む（7）		病といやし（ヨハネ5:1～18 マルコ2:1～12）						ディスカッション	
第14回	福音書を読む（8）		「どうして」「何故」と問わない（ヨハネ9:1～12）							
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義とまとめとふりかえり							
評価 方法 及び 評価 基準	原則としてレポート50%（2回）、講義の出席と参加30%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。 レポートは創世記から1回、福音書から1回。A4サイズ1枚程度。記述の適切さ、自分の考えや意見が的確に述べられているかを判断する。2回提出されない場合は不合格となる。									
課題等	講義時に指示。									
事前事後 学修	講義前に聖書テキストを読み予習しておくことは必須。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』。前期と同様。 ノートとプリントを保管するファイルを各自用意のこと。基本的に毎回プリントを配布する予定。									
留意点	木曜日10:20からの礼拝に出席すること。									

科目名	歴史学 A		科目コード	W23005	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-03		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、古代地中海世界の誕生、古代ギリシアと古代ローマ、ユーラシアの東西交流、イスラム帝国とアジアの大航海時代の順で、古代から中世初めの世界史の学習を行います。また映像教材も大いに活用します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた古代から中世のユーラシアの歴史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンスー書き換えられる古代エジプト		映像教材を使いながら、本授業のねらいを説明します。						講義形式	
第2回	古代エジプト文明とナイル川・地中海世界		研究の発展をふまえた新たな視点からエジプト文明の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	海洋民族フェニキア人		ギリシア人と並んで地中海の覇者となったフェニキア人について学ぶ						講義形式	
第4回	海洋民族ギリシア人とギリシア文明		古代エーゲ海世界とギリシア人の登場について学ぶ						講義形式	
第5回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 1		都市国家アテナイを中心に古代ギリシア社会の発展について学ぶ						講義形式	
第6回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 2		古代ギリシアの黄金時代と都市国家アテナイの繁栄について学ぶ						講義形式	
第7回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ 1		映像からローマ帝国の政治・軍事システムを学ぶ						講義形式	
第8回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ 2		映像からローマ帝国の生活・文化を学ぶ、ミニレポートは前半の総括						講義形式	
第9回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 1		ローマ帝国誕生の前史を学ぶ						講義形式	
第10回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 2		都市国家から海洋国家へのローマの発展について学ぶ						講義形式	
第11回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 3		「地中海帝国」としてのローマ帝国の誕生について学ぶ						講義形式	
第12回	シルクロードとユーラシアの海の道		ローマ帝国時代のユーラシア東西交流の実像を学ぶ						講義形式	
第13回	イスラム帝国とアジアの大航海時代		イスラム帝国の登場とアジアの大航海時代の開始について学ぶ						講義形式	
第14回	イスラム帝国とイスラム文化		「イスラムとは何か」を学び、イスラムに対する誤解を正す						講義形式	
第15回	「海のシルクロード」の誕生		アジアの大航海時代の内容と「海のシルクロード」の存在を学ぶ						講義形式	
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な事項に対する問いも含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史学B		科目コード	W23006	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-TFGS1-04	30時間						
区分	総合科学系科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、モンゴル帝国と「海のシルクロード」の繁栄、モンゴルがもたらしたユーラシア世界の変容、大航海時代の開始と光と影、世界の新たな時代と「世界史の誕生」の順で、中世から近世初めの世界史の学習を行います。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた中世から近世の世界史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイドンサー陸のシルクロードと海のシルクロード		映像を利用しながら、本授業のねらいを解説します。						講義形式	
第2回	アジアの第二次大航海時代		「アジアの大航海時代」全盛期の状況について学ぶ						講義形式	
第3回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国1		遊牧騎馬民族国家「モンゴル・ウルス」の誕生について学ぶ						講義形式	
第4回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国2		クビライの登場とモンゴル元帝国の海洋国家への発展について学ぶ						講義形式	
第5回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国3		クビライの通商・経済政策と中国社会の発展について学ぶ						講義形式	
第6回	モンゴル帝国と世界史の新たな時代		モンゴル帝国が世界史の新たな時代を開いたことを学ぶ						講義形式	
第7回	明の建国とユーラシアの再編		モンゴル帝国解体後の世界史を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第8回	大航海時代の序曲		「大航海時代」はどのように始まったのかを多角的な視点から学ぶ						講義形式	
第9回	海洋王国ポルトガルと大航海時代の開始		海洋国家ポルトガルの登場とエンリケ航海王子の事業について学ぶ						講義形式	
第10回	コロンブスの大西洋横断航海と新大陸発見		コロンブスの「新大陸発見」の内容とその意義を学ぶ						講義形式	
第11回	ヴァスコ・ダ・ガマと大航海時代の本格開始		ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路開拓と、それがもたらした結果を学ぶ						講義形式	
第12回	ポルトガル海洋帝国		海洋帝国ポルトガルの黄金時代とその実像を学ぶ						講義形式	
第13回	スペイン植民地帝国		「太陽の沈まぬ帝国」スペインの繁栄と植民地支配のシステムを学ぶ						講義形式	
第14回	「大航海時代」がもたらしたもの 1		大航海時代のその後と「銀の洪水」・世界経済の変容について学ぶ						講義形式	
第15回	「大航海時代」がもたらしたもの 2		大航海時代がもたらした世界（日本も含めて）の変容について学ぶ						講義形式	
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	哲学A		科目コード	W23003	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-05		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 〔キーワード： 哲学の始まり〕 無知の知—ソクラテスが打ち立てた哲学。プラトンの継承—イデア論。アリストテレスの形而上学—形相。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	西洋の思想のルーツを学び、自己の思想の基礎、社会福祉を実践する上での根拠となる思想を確立する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	ソクラテスと哲学の誕生		知を愛すること、アイロニー						PBL	
第2回	プラトン『ソクラテスの弁明』解説		アニュトス、メレトス、リュコン						PBL	
第3回	プラトン『ソクラテスの弁明』解説		アルキビアーデス						グループワーク	
第4回	プラトン『ソクラテスの弁明』解説		三十人政権の乱、教育裁判						PBL	
第5回	プラトン『クリトン』解説		夢知らせの語り						PBL	
第6回	プラトン『クリトン』解説		ダイモンへの確信						PBL	
第7回	プラトン『クリトン』解説		神の導き						PBL	
第8回	プラトン『パイドン』解説		ソクラテス最後の思索						PBL	
第9回	プラトン『パイドン』解説		自殺や逃亡の拒否						PBL	
第10回	プラトン『パイドン』解説		魂の不死への信仰の理性的に吟味						PBL	
第11回	プラトン『パイドン』解説		哲学とは実在へと上昇すること						PBL	
第12回	ソクラテス以前の哲学		自然の根源的意味、生きた自然、ロゴス						PBL	
第13回	プラトンのイデア論		イデア論の真意、制作的存在論、物質的自然観						PBL	
第14回	アリストテレスの形而上学		イデア論批判、批判的形象、形而上学の思考様式						PBL	
第15回	まとめ		思想の現実的有効性に向けて						PBL	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつのる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。									
課題等	主にレポートを課題とする (①予習レポート②発表レポート③復習レポート)									
事前事 後学修	演習がある時は、参考書を読み、論題を整理しておく。演習後の学びについては、それによって気づいたポイントを明記する。									
教材 教科書 参考書	『反哲学史』木田元、講談社学術文庫 ISBN:4-06-159424-9 『哲学史講義Ⅱ』ヘーゲル、河出文庫 ISBN:978-4-309-46602-6									
留意点	グループに分かれ、テキストの朗読、解釈、意見を活発にかかわす機会にしたいと思う。									

科目名	哲学B		科目コード	W23004	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-06		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 〔キーワード： 近代哲学の誕生と発展〕 社会福祉を实践してゆく上での根拠となる思想を確立する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	近代西欧思想を歴史的に学び、自己の思想の基礎を固め、社会福祉実践の上での思想的根拠とする。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)							備 考	
第1回	デカルトと近代哲学の創建	アリストテレス・トマス主義、 プラトン・アウグスティヌス主義							PBL	
第2回	デカルト『方法序説』解説	普遍数学的構想、方法への関心							PBL	
第3回	デカルト『方法序説』解説	形而上学への転向、方法的懐疑							PBL	
第4回	デカルト『方法序説』解説	わたしは考える、神の存在証明							グループワーク	
第5回	カントと近代哲学の展開	啓蒙と理性主義、コペルニクスの転回、物自体と現象							PBL	
第6回	カント『道徳形而上学原論』解説	道徳に関する常識的認識							PBL	
第7回	カント『道徳形而上学原論』解説	道徳形而上学への移り行き							PBL	
第8回	カント『道徳形而上学原論』解説	純粹実践理性批判への移り行き							グループワーク	
第9回	ヘーゲルと近代哲学	ドイツ観念論、カント批判、生成する精神、弁証法、絶対精神							PBL	
第10回	後期シェリングと実存哲学	近代哲学批判、実証主義、実存哲学							PBL	
第11回	初期マルクスの自然主義	「経済学・哲学草稿」、ヘーゲル批判、全面的心理の立場							PBL	
第12回	キルケゴールの質的弁証法	実存の思索							PBL	
第13回	ニーチェと「悲劇の誕生」	アポロ的、デオニソス的、ワーグナーの存在							PBL	
第14回	ニーチェと「力への意志」	エリザベートの存在							PBL	
第15回	まとめ	科学至上主義と実証主義から反実証主義へ							PBL	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつくる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。									
課題等	主にレポートを課題とする(①予習レポート②発表レポート③復習レポート)									
事前事 後学修	演習がある時は、参考書を読み、論題を整理しておく。演習後の学びについては、それによって気づいたポイントを明記する。									
教材 教科書 参考書	『反哲学史』木田元、講談社学術文庫 ISBN:4-06-159424-9 『哲学史講義Ⅳ』ヘーゲル、河出文庫 ISBN:978-4-309-46604-0									
留意点	必ず予習して発表ができるようにしておく。									

科目名	心理学A		科目コード	W23007	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-07	時間	30時間				
区分	総合科学系系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	山本 尚樹			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 人とコミュニケーションをとり、教育を行っていくためには、その背後にある人の心のメカニズムの理解が必須となります。この授業では言語をはじめとする様々な心の能力の基礎的なメカニズムを学んでいきます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 心理学の学問的特徴を理解する。 2) 「言語」「情動」「思考」などのコミュニケーションの基盤となる様々な心的能力の基本部分を理解する。 3) コミュニケーションの際に留意すべき心の個人差、文化差、つまづきについて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	心理学とは何か			科学としての「心理学」がどのような学問か、概説する。						
第3回	心と脳			心のメカニズムの基盤となる中枢神経系について概説する。						
第4回	感覚と知覚（1）			視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の基礎的知見について概説する。						
第5回	感覚と知覚（2）			視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の応用的知見について概説する。						
第6回	記憶			人の記憶のメカニズムについて概説する。						
第7回	学習			人の学習に関する心理学の基礎研究や理論について概説する。						
第8回	言語			人が言語を理解、算出するメカニズムについて概説する。						
第9回	思考			人の思考のメカニズムとその傾向について概説する。						
第10回	情動			人の情動がその他の心的能力とどのように関わるのか概説する。						
第11回	性格・個人差			人の心の個人差に関する研究について概説する。						
第12回	社会と認知			人を取り巻く社会や文化がどのように物事の捉えかたに影響するのか概説する。						
第13回	心と進化			進化という観点から人の心の発生や特徴について概説する。						
第14回	カウンセリング			カウンセリングやそれに関わる心理学理論について概説する。						
第15回	まとめとふりかえり			授業全体について総括、補足する。						
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	簡単な課題を授業内で指示することがある。									
事前事後学修	毎回の授業をノートをとり、事後学習として復習を行うこと。									
教材教科書参考書	<p>無藤隆（編著）『新版 心理学』（有斐閣 2018年）</p> <p>* 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。</p>									
留意点	特になし									

科目名	心理学B		科目コード	W23008	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-08		30時間				
区分	総合科学系科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 人は絶えず変化する存在である。そうした変化を心理学では発達と呼ぶが、その理解は、他者とコミュニケーションをとり関わりを持つ際に重要な基盤となる。この授業では発達という視点から心理学について学んでいく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 言語の獲得過程とそれに伴う対人関係の発達の变化について理解する。 2) コミュニケーションの際に留意すべき各年代の発達の特徴や心理的課題について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。							
第2回	生涯発達		生涯発達とは何か、またその発達段階論について概説する。							
第3回	乳幼児期の認知・運動発達（1）		乳幼児期の言語獲得の基盤となる認知発達、運動発達について概説する（1）。							
第4回	乳幼児期の認知・運動発達（2）		乳幼児期の言語獲得の基盤となる認知発達、運動発達について概説する（2）。							
第5回	乳幼児期の言語と対人関係の発達		乳幼児期の言語と対人関係の発達について概説する。							
第6回	発達障害と臨床的援助		基本的な発達障害の理解とその臨床的援助について概説する。							
第7回	児童期・思春期の発達		児童期から思春期にかけての心理発達と、それに伴う仲間関係の発達について概説する。							
第8回	児童期・思春期の心理障害と臨床援助		児童期・思春期の心理障害の特徴と、かかわりを持つ際の留意点について概説する。							
第9回	青年期の発達		アイデンティティの確立という観点から青年期の心的発達について概説する。							
第10回	青年期の心理障害と臨床援助		青年期発達の特徴と心理障害との関連性を概説する。							
第11回	成人期の発達		中年期の入り口や中年期から老年期への移行期に生じるアイデンティティの変容について概説する。							
第12回	家族臨床		夫婦療法や家族療法といった家族臨床と家族発達について概説する。							
第13回	老年期の発達と臨床援助		生涯発達という観点から老年期の捉え、その発達の課題について講義する。							
第14回	学校臨床・学生相談		学校における臨床援助活動や学生相談について概説する。							
第15回	まとめとふりかえり		授業全体について総括、補足する。							
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
事前事後 学修	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	下山 晴彦（編著）『教育心理学Ⅱ：発達と臨床援助の心理学』（東京大学出版局 1998年） * 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	情報処理 A (a) (b) (c)		科目コード	(a) W23009 (b) W23030 (c) W23031	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-09		30時間				
区分	総合科学系系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 パソコンの基本的な操作法と代表的なアプリケーションであるワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	パソコン初心者でも、基本文書等の作成ができるようになることを目標とする。レポートや資料の作成に困らない技能を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	パソコンの起動とWindowsの基礎			Windowsの起動と終了 アプリケーションソフトの基本操作						
第2回	インターネット			インターネットの利用				情報倫理を含む		
第3回	Word 1			Wordの起動と終了 文字入力						
第4回	Word 2			漢字変換 文章の入力・訂正						
第5回	Word 3			ファイルの保存と読み込み・ページ設定と印刷 文書の作成・文字の書式						
第6回	Word 4			表・画像と図形						
第7回	課題第1回			Word課題						
第8回	情報検索／課題第2回			インターネットで情報検索				インターネットによる 学術情報の利用		
第9回	電子メール／課題第3回			電子メール・添付ファイル				情報セキュリ ティ・情報倫理を 含む		
第10回	Excel 1			Excelの起動と終了 データ入力の基礎						
第11回	Excel 2			ワークシート編集 関数を使った計算式・相対参照と絶対参照						
第12回	Excel 3			罫線・グラフ・条件判定						
第13回	課題第4回			Excel課題						
第14回	PowerPoint 1			PowerPointの起動・プレゼンテーションの作成						
第15回	PowerPoint 2			アニメーション効果・スライドショー						
評価 方法 及び 評価 基準	課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。									
課題等	授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。									
事前事後 学修	教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	『30時間でマスターOffice 2016』実教出版(本体1000円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784407340181									
留意点	受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。									

科目名	情報処理 A (d)		科目コード	W23032	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-09		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 表計算ソフト(Excel)の使用法を中心に、パソコンによるデータ処理の方法を、LL教室で実際に操作しながら学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	Excelの基本的な操作能力を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			ガイダンス／データダウンロード						
第2回	Excelの基礎知識			Windows・Excelの起動終了 データの入力						
第3回	Excel入門			文・記号の入力 合計の計算・ファイルの保存と呼び出し						
第4回	Excel入門、ワークシートの活用(1)			印刷・グラフの作成 行・列の操作・編集						
第5回	ワークシートの活用(1)			列幅・行の高さの変更 平均の計算・計算式の複写と相対参照・文字位置						
第6回	ワークシートの活用(2)			罫線 絶対参照・文字属性						
第7回	課題第1回			課題第1回						
第8回	ワークシートの活用(2)			最大・最小・データのカウンタ・四捨五入・切り上げ・切り捨て						
第9回	ワークシートの活用(2)			条件の判定とネスト 条件付書式						
第10回	グラフ(1)			棒グラフ・積み上げグラフ・折れ線グラフ・円グラフ						
第11回	課題第2回			課題第2回						
第12回	グラフ(2)			3-Dグラフ・複合グラフ・ドーナツグラフ						
第13回	グラフ(2)・データベース			レーダーチャート・散布図・絵グラフ オートコンプリート機能・ウィンドウ枠の固定						
第14回	データベース			日付の表示・ふりがなの表示・データの並べ替え データの検索と置換・データの抽出・条件の書き方						
第15回	課題第3回			課題第3回						
評価 方法 及び 評価 基準	平常点(授業への取り組み)55%、課題45% Excelの操作とデータ処理の習熟度を試す課題を出す。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。									
課題等	授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。									
事前事後 学修	教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	『30時間でマスター Excel 2016』実教出版(本体950円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784407340211									
留意点	定員: 40名(履修者の調整をすることがあるので掲示に注意) 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。									

科目名	情報処理B (a) (b)		科目コード	(a) W23010 (b) W23033	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-10		30時間				
区分	総合科学系系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの効果的な使用法を、問題練習を通じて学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	文書や資料の実践的な作成能力を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス+コンピュータの基本操作			ガイダンス コンピュータの基本操作						
第2回	Word 1			文書の作成と管理						
第3回	Word 2			一般的なビジネス文書の作成						
第4回	Word 3			シンプルなレポートや報告書の作成						
第5回	Word 4			表、画像、図形を使った文書の作成						
第6回	課題第1回			Wordの課題						
第7回	PowerPoint 1			プレゼンテーションの企画/わかりやすいストーリー構成						
第8回	PowerPoint 2			センスアップするレイアウトデザイン						
第9回	PowerPoint 3			イメージを伝えるイラスト・写真活用						
第10回	課題第3回			PowerPointの課題						
第11回	Excel 1			表作成の基本操作						
第12回	Excel 2			表を見やすく使いやすくする編集操作						
第13回	Excel 3			数式・関数を活用した集計表の作成						
第14回	Excel 4			グラフの基本						
第15回	課題第2回			Excelの課題						
評価 方法 及び 評価 基準	課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。									
課題等	授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。									
事前事後 学修	教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	『情報利活用基本演習Office2016対応』日経BP社(本体1600円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784822297985									
留意点	定員：各コマ40名(履修者の調整をすることがあるので掲示に注意) 受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 USBメモリーを用意すること。									

科目名	情報処理B(c)		科目コード	W23034	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-10		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目	選択 必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 表計算ソフト(Excel)を中心に、パソコンによるデータ処理の方法を、LL教室で実際に操作しながら学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	問題練習を通じ、Excelの実践的な操作能力を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス+表作成の基本操作			ガイダンス 表作成の基本操作						
第2回	表を見やすく使いやすくする編集操作			列幅・表の構成の変更・セルの結合・文字列の縦書きと折り返し表を見やすく演出・ページレイアウト						
第3回	数式・関数を活用した集計表の作成			相対参照と絶対参照・平均・最大・最小・四捨五入						
第4回	数式・関数を活用した集計表の作成			条件判定とネスト						
第5回	課題第1回			課題第1回						
第6回	表示形式や関数を活用した表の作成			日付の表示形式・データの個数・ふりがな・順位 条件の組み合わせ・コメント						
第7回	定型の表を作成する操作			シートの操作・入力規則						
第8回	定型の表を作成する操作			VLOOKUP関数・シートとブックの保護						
第9回	グラフの基本			グラフの作成とグラフ要素の変更						
第10回	課題第2回			課題第2回						
第11回	目的に応じたグラフの作成と編集			各種グラフの作成						
第12回	目的に応じたグラフの作成と編集 データベース機能の利用			図形とSmartArt データベース・データの入力・データの検索と置換						
第13回	データベース機能の利用			データの並べ替え・ウィンドウ枠の固定・改ページ・日付 テーブルの作成						
第14回	データの抽出			集計行・データの抽出						
第15回	課題第3回			課題第3回						
評価 方法 及び 評価 基準	平常点(授業への取り組み)55%、課題45% Excelの操作とデータ処理の習熟度を試す課題を出す。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。									
課題等	授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。									
事前事後 学修	教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	『情報利活用 表計算 Excel 2016対応』日経BP社(本体1200円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784822297961									
留意点	定員: 40名(履修者の調整をすることがあるので掲示に注意) 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。									

科目名	スポーツ科学概論		科目コード	W23011	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-11		30時間				
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	講義	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 スポーツは遊びである。しかしスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっている。本講義では、スポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観するほか、スポーツに関する各論を含めスポーツ像を再構築する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-2, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	スポーツの存在意義を再認識し、スポーツを理解し新たなスポーツ像を描く視点を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス及び導入			単位、評価、科目の位置付け等の説明。						
第2回	スポーツ科学という学問領域とは？			スポーツを学問の対象にするとはどういうことか。スポーツ科学の学問体系を概観する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第3回	身体運動の存在意義とそのスポーツ化			身体運動の存在意義を人類の歴史に即して捉え、身体運動が実用術から非実用術へ移行しスポーツ化する過程を理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第4回	古代オリンピック			古代ギリシャで長年開催されていた古代オリンピックから当時のスポーツ観やスポーツの存在価値を知る。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第5回	近代オリンピックの歴史1			その始まりと理念及び第2次世界大戦以前の普及と存在意義の変容を知る。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第6回	近代オリンピックの歴史2			日本と近代オリンピックの関係を歴史的に見る（JOCホームページ等参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第7回	オリンピックという存在			そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて理解する。（JOCのホームページで『オリンピック憲章』を探してみよう。）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第8回	映像資料に見るオリンピック			オリンピックの精神やエピソード、魅力等をDVD映像から学ぶ。				DVDを資料に使う講義		
第9回	オリンピックビジネス			特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点からふまえて理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第10回	各論1-a（ドーピング1）			ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを学ぶ。（JADAやJOC等のホームページ参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第11回	各論1-b（ドーピング2）			ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを学ぶ。（JADAやJOC等のホームページ参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第12回	各論2（スポーツと国際情勢）			スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」「宗教」「女性」といった観点から捉える。				ppt. スライドまたはDVDを使って講義		
第13回	各論3（スポーツと自然）			自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ（登山を例に）の変容を理解する				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第14回	各論4（障害者スポーツ）			障害者スポーツの現状と課題をパラリンピックを題材として理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第15回	総括			これまでの講義全体を振り返り、補足や要点の整理をする。試験の傾向と対策						
評価 方法及び 評価 基準	試験：100点（講義で扱ったスポーツに関する最低限の知識及びスポーツに対する認識と理解度を問う設問集） ※配布したプリント（ppt. スライド）に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。									
課題等	オリンピックをはじめとするスポーツ関連の情報（ニュース等）に日頃から注意を向ける。									
事前事後 学修	JOC（日本オリンピック委員会）、JADA（日本アンチ・ドーピング機構）等のホームページの情報を講義内容の理解（特に復習）に活用することが有効である。〔ICTの活用〕									
教材 教科書 参考書	ppt. スライド使用、プリント配布、DVD									
留意点	・ 出席は取らないが、自身でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できない。 ・ 教職免許のために確実に「体育（2単位）」を習得したい人は、実技も2種目（2単位分）履修するという保険を掛けることをお勧める。									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目コード	W23022	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-12						
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について学習する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について			授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類						
第2回	健康とは、健康問題の概観			健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因				Slidoでのアンケート		
第3回	栄養と健康（1）			消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント						
第4回	栄養と健康（2）			肥満						
第5回	心身の健康を知る（1）			健康診断（身長、体重、BMI、血圧、心電図、胸部X線）						
第6回	心身の健康を知る（2）			健康診断（血液検査；血球数、ヘモグロビン値、コレステロール、中性脂肪、クレアチニン値）						
第7回	心身の健康を知る（3）			メタボリックシンドローム、心の健康						
第8回	体力および持久力の指標			体力の分類とその加齢変化、および持久力の指標				グループワークを含む		
第9回	身体活動・体力と疾病の関係			身体活動量・体力と疾病との関係、および健康関連体力						
第10回	身体運動のプログラム			効率的に持久力、筋力（筋肥大）、柔軟性を高めるトレーニングの方法						
第11回	身体活動の指針			WHOと日本の身体活動指針						
第12回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置			急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死						
第13回	アダプテッド・スポーツ			アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方						
第14回	アルコール・喫煙・睡眠と健康			アルコールや喫煙による急性・慢性の影響と健康、睡眠の役割						
第15回	生物学的女性の健康と医学			性ホルモンの変化と卵巣および月経周期、月経関連疾患（PMS、月経困難症など）						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者につき、定期試験（筆記試験またはレポート）（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とする。									
課題等	なし									
事前事 後学修	教科書は指定していないが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をすること。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べること（1.5時間）。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布する。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関する記事や生活・科学欄を読むこと。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学部棟）の宇田研究室に来ること。Teamsを使用する。授業では「Slido」を用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがある。									

科目名	スポーツ科学実技 A (バスケット 1)		科目コード	W23012	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGSO-13		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也 (実務経験：公認指導資格を有する教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 5人制バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム(5人)の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実戦を学ぶ。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができない。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはならない。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要である。尚、重要な技能要素の一つであるドリブルの習得には、個別に相当量の練習時間を要するため、授業時間内では紹介のみとする。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワーク、ステップ、ラン及び連携を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解し実践する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・ 受講者数、経験の有無等の確認 ・ 体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達				場所：体育館 実技の準備不要		
第2回	講義 1			1. ルーブリックの解説 2. 名称、歴史、コート規格等 3. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。				場所：教室 ルーブリック配布		
第3回	講義 2			基礎知識の確認と筆記テスト						
第4回	基本の動き 1			ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き						
第5回	基本の動き 2			フットワーク各種、対人の動き						
第6回	基本の技術 1			ボールハンドリング、ドリブル、ピボット、キャッチ、パス、ミート 等						
第7回	基本の技術 2			対面パス(各種のパス)、移動を伴うパス、パス&ラン(三角パス、四角パス)						
第8回	オフェンス 1			パス&ラン、シュートの基本(セット、ランニング、ドリブル)、2メン						
第9回	オフェンス 2			シュートの基本、2メン、3メン(3線の理解)						
第10回	オフェンス 3			3メン、アウトナンバー(2対1、3対2)、得点の確率を上げるための合理的な展開						
第11回	ディフェンス 1			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 1対1						
第12回	ディフェンス 2			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 2対2、						
第13回	ディフェンス 3			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 3対3、アウトナンバーディフェンス						
第14回	攻防の展開 1			5対5(ゲーム形式)						
第15回	攻防の展開 2及び実技テスト			5対5(ゲーム形式)、実技テスト						
評価 方法 及び 評価 基準	・ 評価点数配分の内訳、実技の評価基準の詳細等をルーブリックにて提示、解説 ・ 授業への参加状況：50点 実技テスト：30点 筆記テスト：20点									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	筆記テストへの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技なので個別の予習、復習は困難。									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	男女問わず。部活動その他で専門的な指導を受けたことのない人を対象とする。3学部合同で実施 定員：24名 受講希望者が24名を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。									

科目名	スポーツ科学実技B (シーカヤック)		科目コード	W23013	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGSO-14		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也 尾形 信(協力プロガイド) (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックのことである。シーカヤックツアーをメインとする海浜野外活動（SAP体験あり）を体験学習する。2泊3日のキャンプ形式で実施する。〔フィールドワーク、グループワーク等のアクティブラーニング要素を含む〕									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	・シーカヤックの基本操作の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・野外での衣食住と共同生活への順応									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
1	ガイダンスと事前学習 (7月)		受講心得、交通手段、費用、装備等について 基本作業の確認						Teams連絡または 掲示に注意	
2	実習		実習地：北海道泊村盃海岸（予定）							
	〔フィールドワーク、グループワーク、PBL〕		日 程：8月お盆以降（予定）（2泊3日 移動日を除く）							
			内 容 ・ 陸上指導 ・ 海上実践練習							
			・ ショートツアー						・ 2人乗り艇	
			・ キャンプサイトの設営と撤収							
			・ たき木調達とたき火の管理							
			・ 食料、飲料水の管理と野外炊事							
			・ 各種海浜野外活動（各自）							
			・ 報告書作成						・ 個別活動	
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンス、実習の参加、活動状況と活動報告書（5段階評価）を総合して評価する：100点 ※ガイダンスを無断欠席した場合は、実習に参加できない。									
課題等	団体行動に適応し、安全に配慮しつつも何事にも積極的に取り組む。虫嫌いや食べ物の好き嫌いを克服する。									
事前事後 学修	〔事前〕現地で実施したい個別活動の計画と準備									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	定員：3～8名 登録前に必ず、担当教員と面談し、適性の確認を受けてから登録すること。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後、キャンセルした場合は、この内金は返金されないため、登録には注意すること。受講費総額（内金含む）の目安¥35,000前後＋北海道往復旅費 3学部合同実施 ※泳げなくても大丈夫！									

科目名	スポーツ科学実技C (スノースポーツ)		科目コード	W23014	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS0-15		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 種目：スキー（初級者限定※未経験者不可） グループ分けにより自身のレベルに合った学習でスキルアップを目指すとともに、スキーのおもしろさを学ぶ。 対象レベル：緩斜面をブルーク姿勢(ハの字)で真っ直ぐ滑って止まれる～ブルーク姿勢で緩斜面をターンしながら滑り降りる程度までの者を対象とする。</p>									
	<p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で楽しい技術の習得 ・生涯スポーツとしてのスキーの楽しさ、おもしろさの理解 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
1	ガイダンス		[12月上旬] 要項配布と説明、確認							
2	実習		<ul style="list-style-type: none"> ・実習地：未定 ・日 程：未定 ・内 容：未定 <p>※降雪状況により延期または中止あり</p> <p>※用具やウエアのない人には、レンタルあります。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク ・グループワーク ・デモンストレーション 	
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書										
留意点	詳細未定 年度初めに改めて通知									

科目名	スポーツ科学実技D (バスケット2)		科目コード	W23015	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期変則
			科目ナンバリング	W-TFGSO-16		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也 (実務経験：公認指導資格を有する教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 原則として部活動その他でバスケットボールの専門的な指導を受けた経験がある人を対象とする。 (経験年数不問) この授業は、1つのスポーツ競技としてのバスケットボールという存在を総合的に理解することを目的とする。そのために、実技はもちろんのこと、ゲーム運営(審判及びテーブルオフィシャル)、スポーツボランティア体験及び ハイレベルなゲームの分析も含まれる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	バスケットボールの総合的な理解と実践									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・バスケ経歴の確認 ・体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達 ・基礎知識の確認と解説〔反転学習〕				教室にて実施 実技の準備は不要		
第2回	実技：基本の確認			レベルチェックのための各要素(パス、ラン、ドリブル、シュートなど)の確認〔反転学習〕						
第3回	オフェンス1			パス、ラン、シュート、1対1～3対3、スクリーンプレー、ノードリブルオフェンス、アウトナンバーオフェンス その他						
第4回	オフェンス2									
第5回	ディフェンス1			マンツーマンディフェンスの基本、フルコートディフェンス、アウトナンバーディフェンス その他						
第6回	ディフェンス2									
第7回	攻防の展開			5対5(ゲーム形式)						
第8回	テーブルオフィシャル及びスタッツ			正しいT0の運営とスタッツ入力への理解				教室にて実施		
第9回	審判の基礎			JBA公認審判(E級)講習を受講する〔ICT活用：eラーニング〕 (要受講関係費用¥1,400 ※2023年度参考) ※既に取得済みの者は免除				12月までに修了すること		
第10回										
第11回	スポーツボランティア体験			Bリーグ・青森ワッツのホームゲームボランティアを体験し、レポートする。〔フィールドワーク、グループワーク〕				10月～12月開催のゲームを対象とする		
第12回										
第13回										
第14回	ゲーム分析			国内、国外のハイレベルな試合(プロリーグ等)を観戦(映像可)しレポートする。				観戦方法によっては、ICTの活用 (WEB配信映像)		
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	・授業への参加状況：30点 ・実技レベル：20点(5段階評価) ・eラーニング修了：20点 ・ボランティア体験報告：20点 ・ゲーム分析レポート：10点									
課題等	eラーニング及びボランティアは必須課題とし、修了が確認できない場合は、単位不可とする。									
事前事後 学修	eラーニングやゲーム分析は、開講以前(前期中)でも実行可能なので、希望者は事前に申し出ること。									
教材 教科書 参考書	必要に応じて、提示、配布する。									
留意点	男女問わず、同年度においてバスケットボール1(A)と両方の受講は認めない。3学部合同で実施 定員：18名 受講希望者が定員を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。									

科目名	スポーツ科学実技E (スクーバダイビング)		科目コード	W23016	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS0-17		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也 土田 浩人 (協力インストラクター) (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 NAUIオープンウォーターダイバー(以下OWD)認定コースを受講することで、スポーツスクーバダイビング技能の習得を目指すとともに海浜(海洋)野外活動を学ぶ。(2泊3日合宿型) OWDに認定されると、「Certification Card(通称:Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格の取得を目指す第一歩となる。実習期間中に認定に至らない場合は、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできる。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはOWD認定を受けている人等で上位コース(アドバンスダイバー等)の受講を希望する人にも対応する。</p>									
	<p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。</p>									
到達 目標	NAUI OWD認定									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
1.	ガイダンス (7月)			・ 受講心得・交通手段・費用・装備・事前提出書類・eラーニング等について						
2.	NAUI OWD認定講習プログラム			<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科講習：eラーニング+現地補講 ・ 実習地：北海道美国町(積丹半島) ・ 日 程：夏休み中 2泊3日+前後移動日 ・ 内 容 <ul style="list-style-type: none"> [1日目] 午前：実技1 午後：実技2+学科補講 [2日目] 午前：実技3 午後：実技4 [3日目] 午前：実技5 午後：実技6 					<p>[反転学習(eラーニング)]は実習前に修了</p> <p>※DIVE-BIDS(美国ダイビングサービス)の正規講習を受講する。</p> <p>グループワーク (パディシステム)</p> <p>フィールドワーク</p>	
評価 方法 及び 評価 基準	OWD認定：100点 パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合：80点 ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。									
課題等	合宿による集中授業なので、集団生活への対応、特に他の者との協調性が求められる。また、スクーバダイビングに対する身体的適応性の事前確認が必要									
事前事後 学修	学科講習：実習前のeラーニングによる反転学習 [必須課題] 足の届かない深さで泳げる(パニックにならない)ようになっていること。									
教材 教科書 参考書	事前に所定の教材及び各種確認書類を配布									
留意点	持病や体質等により受講できない場合があるので、登録前に必ず、担当教員と面談し 適性の確認 を受けること。(Teamsのチャットによるアポイント可) 履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、この内金は返金されない。登録には注意すること。受講費総額(内金含む)目安¥54,000程度(講習料、施設使用料、食費など)+北海道往復旅費 3学部合同実施 〔視力について〕球面度数-2.0(目安視力値0.2)以下の人は、度付きレンズマスクの購入が別途必要。(購入価格¥24,000+税程度) ※コンタクトレンズの使用不可									

科目名	スポーツ科学実技J (アウトドアスポーツ: 陸)		科目コード	W23021	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGSO-18		16時間				
区分	総合科学系科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 多様化するアウトドアスポーツの中から自身の脚力で陸上移動する2種目を日帰りまたは宿泊を伴って実施する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングの基礎と走り方の習得 ・登山の基礎と歩き方の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・運動時における水分およびエネルギー補給の理解と実践 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
1.	ガイダンス			・実施方法 ・注意事項 ・グループ分け 等						
2.	サイクリング ※ママチャリ可 ※ヘルメット着用のこと			①基礎知識 ②計画と準備（コース、装備、飲食、自転車の整備 その他） ③実習 ・日程：土日または夏休み ・場所：津軽地方 ④報告書					フィールドワーク グループワーク	
3.	登山			①基礎知識 ②計画と準備（コース、装備、飲食、パッキング その他） ③実習 ・日程：休日または夏休み ・場所：八甲田山系 ④報告書					グループワーク	
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンスを含む授業参加状況：70点 報告書：30点（活動内容報告書を所定の書式に従い作成する。）									
課題等	事後報告書（コースタイム、コース状況、装備と飲食の振り返り等）の提出									
事前事後 学修	・自転車に乗れること ・長時間の歩行に耐えられる体力を身につけておくこと									
教材 教科書 参考書	プリント資料の配布									
留意点	定員：12名（定員を超える受講希望がある場合、抽選） 交通費、食費等実費は自己負担 社会福祉学部と文学部の合同開講									

科目名	スポーツ科学実技H (柔道)		科目コード	W23019	単位数 時間	1単位 16時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS0-19						
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	高橋 俊哉 (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 柔道の基本を楽しく学習します。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	受け身を確実にマスターし、安全に試合を楽しむことができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	柔道とは			柔道の歴史と意義、基本動作						
第2回	足技 1			後ろ受け身、大内刈、小内刈				実習 グループワーク		
第3回	足技 2			横受け身、送足払、出足払				実習 グループワーク		
第4回	足技 3			横転横受け身、膝車、支釣込足				実習 グループワーク		
第5回	足技 4			大外刈、小外刈				実習 グループワーク		
第6回	腰技 1			前回り受け身、大腰				実習 グループワーク		
第7回	腰技 2			前回り受け身、釣込腰、体落、袈裟固				実習 グループワーク		
第8回	手技 1			背負投、払腰、内股、横四方固				実習 グループワーク		
第9回	固技 1			立ち技の練習法、上四方固				実習 グループワーク		
第10回	固技 2			約束稽古、縦四方固、肩固				実習 グループワーク		
第11回	固技 3			乱取り、関節技				実習 グループワーク		
第12回	固技 4			乱取り、絞め技				実習 グループワーク		
第13回	審判法			審判法、寝技の練習法				実習 グループワーク		
第14回	試合			試合				実習 グループワーク		
第15回	形			投の形				実習 グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	授業態度及び参加度50点、実技試験50点により総合的に評価します。									
課題等	なし									
事前事後 学修	事前に柔道の試合について映像等で確認してください。									
教材 教科書 参考書	講道館ホームページ (http://kodokanjudoinstitutte.org)									
留意点	貸し出し用柔道着に限りががありますので、用意できる人は持参してください。									

科目名	日本史 A		科目コード	W63011	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-20		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の出発点として、日本列島における原日本人の登場から、縄文・弥生時代、邪馬台国、ヤマト王権をへて、律令国家＝古代「日本国」が誕生するまでの、古代日本の歴史を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な日本史（原始・古代史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンスー「教科書日本史」からの卒業をめざして			本授業のねらいと計画および学習方法について、映像教材なども使いながら、解説します					講義形式	
第2回	日本列島の誕生と縄文文化			日本列島の誕生と新石器時代＝縄文時代の始まりについて学ぶ					講義形式	
第3回	縄文文化の東と西			東北・東日本で栄えた縄文文化と縄文時代の歴史を学ぶ					講義形式	
第4回	弥生時代とはどのような時代か			鉄器農耕文化、文明の第1段階としての「弥生時代」の性格を学ぶ					講義形式	
第5回	渡来人と弥生時代の開始			「稲作の伝来」と弥生時代の始まりについて、映像も使いながら学ぶ					講義形式	
第6回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 1			研究の発展で書きかえられた弥生時代の歴史を学ぶ					講義形式	
第7回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 2			奴国の登場から邪馬台国までの「倭国」の歴史を学ぶ					講義形式	
第8回	「魏志倭人伝」と邪馬台国			魏志倭人伝全文を読み、邪馬台国と卑弥呼の実像を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括					講義形式	
第9回	ヤマト王権と倭王国 1			崇神王朝・応神王朝とヤマト王権の誕生を学ぶ					講義形式	
第10回	ヤマト王権と倭王国 2			古墳文化とヤマト王権による「倭国」の統合過程を学ぶ					講義形式	
第11回	統一国家「日本国」への道、内外の契機			ヤマト政権から律令国家への発展過程を、国内・国際の2つの視点から概括する					講義形式	
第12回	古代統一国家「日本国」の形成 1			東アジア世界の国際秩序「冊封体制」とそこからの離脱について学ぶ					講義形式	
第13回	古代統一国家「日本国」の形成 2			継体王朝の成立から乙巳の変（大化の改新）に至る過程を学ぶ					講義形式	
第14回	古代統一国家「日本国」の形成 3			乙巳の変（大化の改新）以後の律令国家成立に至る歴史を学ぶ					講義形式	
第15回	古代統一国家「日本国」のシステム			完成した古代律令国家「日本国」の国家システムについて学ぶ					講義形式	
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	日本史B		科目コード	W63012	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-21		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 日本史理解の基本テーマとして、幕末・維新から、明治国家の成立、日清・日露戦争をへて、「大日本帝国」が成立するまでの近代日本の歴史を学び、さらに、その後の日中戦争から太平洋戦争に至る過程を展望します。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な日本近代史（幕末・維新から日清・日露戦争をへて大日本帝国の成立まで）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス—戦前の日本はどんな国だったか		本授業のねらいを、映像教材を使いながら解説する。						講義形式	
第2回	開国		ペリー来航と「開国」の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	近代国家への課題		開国が鎖国日本に与えた衝撃と幕末の激動の始まりについて学ぶ						講義形式	
第4回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 1		幕末の政治史を学ぶ（1）安政の大獄から尊攘運動の挫折まで						講義形式	
第5回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 2		幕末の政治史を学ぶ（2）討幕派の誕生から王政復古クーデターまで						講義形式	
第6回	戊辰戦争と明治維新		幕末の政治史を学ぶ（3）、ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第7回	明治日本の課題		明治維新後の日本が直面した課題について学ぶ						講義形式	
第8回	軍事大国路線の選択		明治政府が「軍事大国」路線を選択してゆく過程を学ぶ						講義形式	
第9回	日清戦争への道		日清戦争は何のための戦争だったのかを学ぶ						講義形式	
第10回	日清戦争圧勝と三国干渉		日清戦争の大勝利がもたらした結果について学ぶ						講義形式	
第11回	日清から日露へ		日清戦争後の日本とアジアについて学ぶ、ミニレポートはこの間の総括						講義形式	
第12回	日英同盟と日露開戦		日本が超大国ロシアと戦うことになったいきさつを学ぶ						講義形式	
第13回	日露戦争、薄氷の勝利		「日露戦争勝利」の内実とポーツマス条約の獲得物について学ぶ						講義形式	
第14回	「大日本帝国」の成立		日露戦争勝利で「大日本帝国」が成立したことと、その内容を学ぶ						講義形式	
第15回	アジア太平洋戦争への道		「大日本帝国」のその後を学ぶ、ミニレポートは全体の総括						講義形式	
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史と社会A		科目コード	W63013	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-22		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録を辿りながら、どの様に平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で、本人が何を目指したかを学ぶ。民族・宗教・歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	マイレッド・コリガン・マグワイア		ベティ・ウィリアムズと平和団体を設立。 再教育の重要性を強調					グループワーク		
第2回	アムネスティ・インターナショナル		囚人の救済支援、人権擁護、死刑の廃止、難民救済					グループワーク		
第3回	メナヘム・ベギン		イスラエル首相、サダト大統領との和平合意					グループワーク		
第4回	アンワル・サダト		エジプト革命、アラブ連合共和国、イスラエルとの合意					グループワーク		
第5回	マザー・テレサ		終生誓願、カルカッタ聖マリア学院、神の愛の宣教師信徒会					グループワーク		
第6回	アドルフォ・ペレス・エスキベル		平和と正義のための奉仕、パーチェム・イン・テリス賞					グループワーク		
第7回	アルバ・ライマル・ミュダール		スウェーデンの福祉国家論					グループワーク		
第8回	アルフォンソ・ガルシア・ロブレス		ジュネーブ軍縮会議、カリブの非核地帯、トラテロコ条約					グループワーク		
第9回	レフ・ワレサ		グダニスク造船所、連帯、ポーランド大統領					グループワーク		
第10回	デズモンド・ムビロ・ツツ		アパルトヘイト、真実平和委員会、ケープタウン大主教					グループワーク		
第11回	核戦争防止国際医師会議		マサチューセッツ州サマービル、 フクシマの被爆許容量修正抗議					グループワーク		
第12回	エリ・ヴィーゼル		強制収容所、小説『夜』、					グループワーク		
第13回	オスカル・アリアス・サンチェス		コスタリカ、国民解放党、大統領					グループワーク		
第14回	国際連合平和維持活動		PKO, ベレー帽、停戦監視団、平和維持軍、選挙監視活動					グループワーク		
第15回	リゴベルタ・メンチュウ		先住民族の権利宣言、「万人の健康社」の設立、					グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにグループごとにディベートを行う。									

科目名	歴史と社会B		科目コード	W63014	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-23		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録を辿りながら、どの様に平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で、本人が何を目指したかを学ぶ。 民族・宗教・歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ネルソン・マンデラ		アパルトヘイト、アフリカ民族会議、国民統合政府大統領						グループワーク	
第2回	フレデリック・デクラーク		国民党、民主改革路線、マンデラ釈放、アパルトヘイト法廃止						グループワーク	
第3回	ヤセル・アラファート		ファタハ、PLO、パレスチナ自治政府、						グループワーク	
第4回	シモン・ペレス		新党ラフィ、労働党、PLOとの和解						グループワーク	
第5回	イツハク・ラビン		パルマツハ副司令官、参謀総長、パレスチナ暫定自治宣言						グループワーク	
第6回	パグウォッシュ会議		科学と国際問題に関する会議、 ラッセル・アインシュタイン宣言						グループワーク	
第7回	ジョゼフ・ロートブラット		マンハッタン計画、パグウォッシュ会議、						グループワーク	
第8回	カルロス・ベロ		司教叙階、東ティモール人包括対話						グループワーク	
第9回	ジョゼ・ラモス＝ホルタ		東ティモール民主協会、自決権行使、独立						グループワーク	
第10回	地雷禁止国際キャンペーン		対人地雷の製造と使用禁止のためのNGO、オタワ条約						グループワーク	
第11回	ジョディ・ウィリアムズ		エルサルバドル内戦、ホンデュラス教育計画、地雷廃絶						グループワーク	
第12回	ジョン・ヒューム		クレジットユニオン運動、ベルファスト合意						グループワーク	
第13回	デヴィッド・トリンブル		北アイルランド、社会民主労働党						グループワーク	
第14回	国境なき医師団		ナイジェリア内戦、ベトナム船、マラリア撲滅						グループワーク	
第15回	金大中		新民党、拉致、民主救国宣言、光州事件、国家情報院廃止						グループワーク	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。またそれをレポートとして提出すれば、なおよい。									

科目名	人文地理学 A		科目コード	W63015	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-24		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 人文地理学の基礎的な概念や、諸地域で展開される人文地理要素を学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 4-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	自然環境を土台に展開する人々のくらしや風土を系統的に整理し、任意の場所についてそれぞれの生じている人文地理的事象を説明できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション			人文地理学とは					講義	
第2回	地域差の存在と認識①			身の周りにある地域差					講義	
第3回	地域差の存在と認識②			東日本と西日本における地域差					講義	
第4回	環境決定論①			環境が生み出すもの					講義	
第5回	環境決定論②			サンプルによる環境決定論					講義	
第6回	環境決定論③			ハンチントンによる環境決定論					講義	
第7回	方言圏論①			方言の多様性					講義	
第8回	方言圏論②			方言と立地条件					講義	
第9回	方言圏論③			方言圏論					講義	
第10回	農業地理①			農業のはじまりと広がり					講義	
第11回	農業地理②			チューネンの孤立国					講義	
第12回	農業地理③			農業地域の形成					講義	
第13回	産業地理①			日本における工業地帯の変遷					講義	
第14回	産業地理②			ウェーバーの工業立地論					講義	
第15回	産業地理③			産業の発展とグローバル化					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験 (80%) , 小レポート (20%)									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄, 橙, 緑)程度を用意すること。									
留意点	状況に応じてオンライン授業アプリ(Teams)を使用して授業を実施することもある。									

科目名	人文地理学B		科目コード	W63016	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-25		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 人文地理学の基礎的な概念や、各分野で展開される人文地理要素を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 4-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	自然環境を土台に展開する人々の暮らし、風土を系統的に整理し、任意の場所についてそれぞれの生じている人文地理的事象を説明できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	地図とは何か			地図の定義				講義		
第2回	地図の起源①			世界における地図の起源				講義		
第3回	地図の起源②			日本における地図の起源				講義		
第4回	地図から読み取る町の変遷①			地形図の読図				講義		
第5回	地図から読み取る町の変遷②			地域の歴史				講義		
第6回	地図から読み取る町の変遷③			地図と歴史から読み取る地域の変遷				講義		
第7回	地図から読み取る町の変遷④			地図と歴史から読み取る地域の変遷				講義		
第8回	村落地理①			村落の定義				講義		
第9回	村落地理②			村落の立地条件				講義		
第10回	村落地理③			集村と散村				講義		
第11回	村落地理④			村落の変遷				講義		
第12回	都市地理①			都市の定義				講義		
第13回	都市地理②			都市の立地条件				講義		
第14回	都市地理③			都市の発展				講義		
第15回	都市地理④			都市における利水の事例				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験(80%)、小レポート(20%)									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄、橙、緑)程度を用意すること。									
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	自然地理学 A		科目コード	W63017	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-26		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	自然地理学の中でも特に地形学の基礎的な方法論・理論を理解し、地形を形成する自然現象についての理解を深める									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	イントロダクション			自然地理学とは				講義		
第2回	世界の地形環境			陸地と海底の大地形と地質				講義		
第3回	気候因子と気候要素			身近な地域の気候の把握				講義		
第4回	ケッペンの気候区分①			計算式による気候区分				講義		
第5回	ケッペンの気候区分②			計算式による気候区分				講義		
第6回	ケッペンの気候区分③			動気候学的にとらえるケッペンの気候区分				講義		
第7回	第四紀に生じた気候変動①			氷期-間氷期サイクル				講義		
第8回	第四紀に生じた気候変動②			完新世における縄文海進				講義		
第9回	第四紀における地形の形成①			気候変動がもたらした段丘の形成				講義		
第10回	第四紀における地形の形成②			地盤隆起がもたらした段丘の形成				講義		
第11回	第四紀における地形の形成③			活断層と断層地形				講義		
第12回	東北の地帯構造①			山と盆地の配列				講義		
第13回	東北の地帯構造②			プレートテクトニクス				講義		
第14回	弘前の地形①			地形図の読図				講義		
第15回	弘前の地形②			台地を刻む開析谷				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験 (80%) , 小レポート (20%)									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した (または同程度の) 地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色 (黄, 橙, 緑) 程度を用意すること。									
留意点	状況に応じてオンライン授業アプリ (Teams) を使用して授業を実施することもある。									

科目名	自然地理学B		科目コード	W63018	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-27		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	自然災害の成因を理解し、自然地理を防災に活用できるようにする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	近年の自然災害に学ぶ①			人口密集地帯での自然災害				講義		
第2回	近年の自然災害に学ぶ②			山間部で生じる自然災害				講義		
第3回	近年の自然災害に学ぶ③			ハザードマップと地理院地図				講義		
第4回	沖積平野における自然災害①			沖積平野の地形をよむ（空中写真判読）				講義		
第5回	沖積平野における自然災害②			津波・高波による自然災害のしくみ				講義		
第6回	沖積平野における自然災害③			河川氾濫による自然災害のしくみ				講義		
第7回	沖積平野における防災・減災			各地域における防災と減災のとりくみについて				講義		
第8回	火山のくに日本①			火山の定義				講義		
第9回	火山のくに日本②			火山地形とその形成過程				講義		
第10回	火山災害①			マグマと溶岩流について				講義		
第11回	火山災害②			山体崩壊による大規模災害				講義		
第12回	火山災害③			降下火山灰がもたらす災害				講義		
第13回	火山災害④			ポンペイの噴火から学ぶ噴火様式				講義		
第14回	火山からの恩恵			火山が人間にもたらす恵み				講義		
第15回	火山の周辺地域における防災・減災			火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験（80%）、小レポート（20%）									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意点	状況に応じてオンライン授業アプリ（Teams）を使用して授業を実施することもある。									

科目名	地誌 A		科目コード	W63019	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-28		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③青森の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	青森県の自然環境について、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしをグローバルな視点で考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション			地誌学とは					講義	
第2回	青森県を地誌学的観点から捉える①			青森県に関する統計資料を使って青森の地誌を知る					講義	
第3回	青森県を地誌学的観点から捉える②			青森県と同緯度の地域を比較し世界の気候帯の中での位置づけを知る					講義	
第4回	世界の気候と日本の気候			大気大循環の中で変化する世界の気候と日本の気候					講義	
第5回	青森の気候①			青森の気候の特色					講義	
第6回	青森の気候②			ヤマセの中での人々の暮らし					講義	
第7回	気候変動の中での青森周辺の環境変化①			10万年周期の気候変動と青森周辺の環境					講義	
第8回	気候変動の中での青森周辺の環境変化②			氷期のころの青森県の様子					講義	
第9回	気候変動の中での青森周辺の環境変化③			縄文海進期の青森県のように					講義	
第10回	青森の平野①			津軽平野のなりたち					講義	
第11回	青森の平野②			津軽平野と人々の暮らし					講義	
第12回	青森の平野③			屏風山の砂丘の形成と農業					講義	
第13回	湖が生み出す環境①			日本の湖と世界の湖のなりたち					講義	
第14回	湖が生み出す環境②			さまざまな湖の特色					講義	
第15回	湖が生み出す環境③			後氷期の環境変動の中で形を変えた十三湖					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験(80%)、小レポート(20%)									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄、橙、緑)程度を用意すること。									
留意点	状況に応じてオンライン授業アプリ(Teams)を使用して授業を実施することもある。									

科目名	地誌B		科目コード	W63020	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-29		30時間				
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③各地の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし									
到達 目標	世界の自然が、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしを考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	世界の自然環境			世界の地形や気候の特徴				講義		
第2回	世界の人文環境①			自然環境をもとに展開する人々の暮らし				講義		
第3回	世界の人文環境②			自然環境をもとに展開する人々の暮らし				講義		
第4回	アフリカの地誌①			アフリカの自然環境				講義		
第5回	アフリカの地誌②			アフリカの人文環境				講義		
第6回	アフリカの地誌③			サハラ砂漠の変遷				講義		
第7回	アフリカの地誌④			サハラ砂漠の変遷				講義		
第8回	ネパールの地誌①			ネパールの自然環境				講義		
第9回	ネパールの地誌②			ネパールの人文環境				講義		
第10回	ネパールの地誌③			ヒマラヤのディレンマ				講義		
第11回	ネパールの地誌④			ヒマラヤのディレンマ				講義		
第12回	タイの地誌①			タイの自然環境				講義		
第13回	タイの地誌②			タイの人文環境				講義		
第14回	タイの地誌③			タイにおける自然災害と防災				講義		
第15回	まとめ			世界地誌と各地域の地誌のまとめ				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験(80%)、小レポート(20%)									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄、橙、緑)程度を用意すること。									
留意点	状況に応じてオンライン授業アプリ(Teams)を使用して授業を実施することもある。									